

事例番号:350060

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 34 週 3 日 胎児超音波断層法で脳室拡大を疑う所見あり

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 5 日

2:50 陣痛発来、出血のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 5 日

8:27 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 5 日

(2) 出生時体重:2100g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.39、BE -2.2mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 超音波断層法で両側脳室拡大あり

生後 5 日 退院

1 歳 10 ヶ月 発達遅滞、左上肢の痙縮疑い

(7) 頭部画像所見:

生後 3 ヶ月 頭部 MRI で脳梁の菲薄化、脳室拡大、脳室周囲の点状の信号異

常を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 5 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であり、原因不明あるいは先天異常の可能性を否定できない。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理(妊娠 29 週 1 日で胎児発育不全と診断して以降、毎回の妊婦健診でノンストレスと超音波断層法を行ったことを含めて)は一般的である。

### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 39 週 5 日入院時および分娩経過中の管理(出血多めのため超音波断層法実施、概ね連続的に分娩監視装置装着、胎児心拍数低下時に酸素投与等)は一般的である。
- (2) 妊娠 39 週 5 日 8 時 15 分に超音波断層法で胎盤早期剥離と診断して帝王切開を考慮したが、その後急速に分娩が進行し経膈分娩したことは一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を行ったことは適確である。

### 3) 新生児経過

出生後の新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。